

『風と花と』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に6回程度の発行を予定しています。

子どもたちの教育は地域全体で担う !!

第24回 南都留地域教育フォーラム 書面+YouTube配信



南都留地域教育推進連絡協議会（会長：鬘櫛利和都留第二中学校長）は、10月29日（金）に「令和3年度（第24回）南都留地域教育フォーラム」を配信型で開催しました。昨年度に続き「コロナ禍」の中で、どうしたら地域の子どもの育成に関わる方々が意見交換を行う機会をつくることができるかを検討した結果、これまでの全体会及び7つの分科会を行う形式は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から難しいと判断し、新しい形式で実施しました。



鬘櫛会長挨拶



基調提案 小俣副会長

今年度は「新しい結びつきで広がる教育の可能性」をテーマに書面開催と共に、実践事例提案をしていただいた3団体（「22世紀を生きる子どもを今どう育てるか～未来を担う子どもたちに必要な「力」を育むための実践・挑戦～：開地保育園」「地域で育てる～地域で育ち、地域で生きる子どもの育成～：かえる舎」「行政機関としての学校教育への支援～行政・専門機関・学校・保護者・地域との連携を通して～：富士河口湖町立教育センター」と都留文科大学鈴木健大氏と富士吉田市立教育研修所村松悟所長を交えて、「連携による成果と課題」等を題材にトークセッションを行いました。さらに、この様子を録画してYouTube配信（視聴者限定）を行いました。また録画・編集等に協力いただいた都留市CATVを通じて、放映をさせていただきます。



トークセッション

上野原高校 山梨県立図書館館長 金田一秀穂 講演会

県立上野原高校（棚橋雅一校長）は、30年以上前から「朝の読書活動」を推進し、読書活動に力を入れてきました。平成12年には「読書活動優良実践校」（文部大臣賞受賞）、平成26年には「子どもの読書活動優秀実践校」（文部科学大臣表彰）にも選出されています。また創立以来「百人一首大会（42回）」を開催しています。こうした取り組みが「ブックレビュー」「アニメーション」活動へと発展してきました。

平成30、令和元年度の県立図書館主催「贈りたい本大賞」の学校賞を連続で受賞した記念として、金田一館長が9月16日（木）に2年2組の生徒（他の生徒は、同時配信で教室にて視聴）を対象とした上記講演会を行いました。「言葉の不思議」をテーマに、生活の中で身近な言葉を当たり前を受容してしまわずに、「考えること」そして「そのことを楽しいと思えるように」と語りかけていました。生徒たちは講師の視点からの問いかけに、戸惑いながらも疑問を持って考える体験に新鮮さを感じていました。



GIGA スクール構想の現状（富士・東部管内）

※「GIGA」＝「Global and Innovation Gateway for All(全ての人にグローバルで革新的な入口を)」

GIGA スクール構想が打ち出されたのは、令和元年12月。文部科学省の定義によると「一人一台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する」ものとなります。

簡単に言うと、一人一台端末とICT（＝Information and Communication Technology「情報通信技術」）環境の整備で子ども一人ひとりに適したより深い学びが実現できるということです。

一斉教育から個別最適な教育へ

一方向から双方向へ

GIGA スクール構想を推進する背景には、①劇的に変化する社会(Society5.0)を生き抜く力をつける教育の必要性と②日本の競争力を高めるために教育のICT化への遅れを取り戻す必要があると言われていています。令和5年度までの一人一台端末の整備を掲げて取り組みが進められていた中で、昨今の新型コロナウイルスの流行と新たな生活様式への対応を受けて、「GIGA スクール構想」は、急加速しています。

※「Society5.0」＝「狩猟社会(Society1.0)」「農耕社会(2.0)」「工業社会(3.0)」「情報社会(4.0)」に続く新たな社会のこと。超スマート社会ともいう。「Society(人間中心の社会)」。

今回は、富士・東部地区管内の現状について、いくつか紹介していきます。



不測に備えた段階的な周知・運用 上野原市教育委員会

上野原市教育委員会（土屋すみじ教育長）では、令和2年12月から「ICT教育うへのはら～上野原市のGIGAスクール～」広報紙を発行しています。創刊号では、ICT教育元年と銘打ち、本市におけるGIGAスクールの取り組みを紹介し、順次1人1台PCやWi-Fi環境の整備に関する補助制度、支援体制、学習ツール「ミライシード」「Google Workspace for Education」の紹介などを家庭向けに行ってきました。

今年度には、オンライン授業参観や児童（生徒）総会等、保護者も巻き込んだPCの活用を行っています。同時にPC利用時の健康への注意喚起や家庭内ルールを親子で話し合ってもらいたいなどの啓発を行いました。7月には、保護者の同意のもとにPCの持ち帰り試行を行い、夏休み明けの本格的なPC活用への問題点の洗い出しを済ませました。そして9月のまん延防止等重点措置期間、対面授業が困難な時期には、小・中学校でオンライン授業を行うことができました。

感染収束の確実な見通しが立たない中、段階的な周知・運用を経て、状況に応じて対面・オンラインを効果的に組み合わせることも可能になりました。今後は、オンライン授業の質を上げていきたいと担当者は語っていました。

高等学校 家庭・学校の連携・連絡ツール&オンライン授業

県立吉田高校（古屋勇人校長）では平成29年から、県立富士河口湖高校（小俣義一校長）でも平成30年から（株）ベネッセコーポレーションの「Classi」を活用しています。これ



吉田高校PCを利用した授業

により家庭への連絡や課題等の指示、提示だけでなく、3年間の自己の記録（ポートフォリオ）も可能となり、保護者・生徒・学校の相互連携もとることができます。また、県立上野原高校（棚橋雅一校長）では、今後の感染拡大等を見据え、9月中旬に全校一斉のオンライン授業(Microsoft「Teams」)の試行を行いました。

広域から通学する高校ならではの課題を、ICTを活用することで克服していこうと、各高校が取り組んでいます。



上野原高校オンライン授業 リアル撮影の様子

「課題」 学校現場で多様な取り組みがなされていますが、全国的な課題として次の点が挙げられています。

- ① 指導や自宅学習での端末の利活用の促進
- ② 指導での活用事例の創出と共有化
- ③ 教員の指導スキルの向上
- ④ コンテンツのリッチ化
- ⑤ 高等学校のICT環境の整備

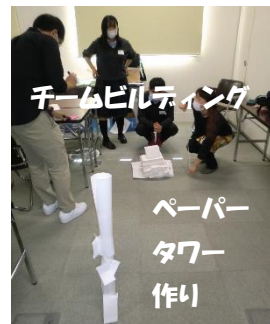


IT × 地方 「C-Table」 × 都留興譲館高校 企業実習

都留市上谷で「LOCAL×#Cで、この社会を面白くする」をコンセプトに、まちづくりからデジタルメディア開発まで、幅広いプロジェクトを行っているのが「C-Table株式会社(田邊耕平 代表)」です(#C=「Creative」「Cloud Technology」「Connectivity」)。

田邊さんは、2017年8月に故郷である都留市に会社を設立し、2020年には官民連携まちづくり法人「一般社団法人まちのtoolbox」理事に就任しました。現在までに「IT講師育成講座」や「『道の駅つる』デジタル情報発信支援」、「官民連携&LINE連携データプラットフォーム『まちマーケット』」、「LINEでゴミの日をチェックできる『ゴミの日チェッカー』」他、デジタルを活用した新しいまちづくりを展開しています。

9月27日(月)には、県立都留興譲館高校(小佐野景賀校長)の3年電子工学科の課題研究の一環で、ローカルクリエイタ班の生徒5人に対して都留市商工会館で企業実習を行いました。「みんなで『ものづくり』を体験しよう」をテーマに、自分が考えたアイデアを実現できる楽しさを知ることを目標に、ファシリテーターの本田久仁子さんの進行の下、授業が行われました。今後12月まで約12回、企業の専門性を生かして地元の高校生の人材育成に協力していきます。



NPO 法人 富士吉田総合型地域スポーツクラブ



平成25年に設立した特定非営利活動法人富士吉田総合型地域スポーツクラブ〔Fujiyoshida Local Area General Sports Club : FLAGSGO フラッグス〕(勝俣 進代表)は、市民のスポーツ振興と健康維持・増進への寄与を基本として、幼児から高齢者までさまざまな社会生活を営むスタイルへのスポーツ活動の提供やスポーツ活動を通じて健康で明るく豊かな生活の実現に資することを目的としています。

現在は、「キッズ教室」や「どよスポ教室」「ウエイトリフティング」などのスポーツ教室の開催事業、「骨なび教室」「若返り教室」などの高齢者向けクラブ活動、スポーツ大会・イベントやセミナーの開催を行っています。

「キッズ教室」は、小学生を対象として、土曜日の午前中に鐘山体育館や市民体育館で行われています。サッカー・ティーボール・ミニバス・卓球・ハンドボール・バドミントン・運動遊びなどを行っています。

※詳しくは、早川通泰(080-2120-4788)へ問い合わせください。

産業技術短期大学校 都留キャンパス × 富士北稜高校 課題研究



県立産業技術短期大学校 都留キャンパス(菊島圭一次長)は、以前から県立都留興譲館高校や県立富士北稜高校(塩入由里校長)との連携協定を結んでいます。今年度の県立の高等学校職業教育ビジョン事業「『産業人材育成プロジェクト』革新技術実践プログラム校」に富士北稜高校が選出され、「即戦力となる実践力の養成」に向けて産業技術短期大学校と連携した課題研究を始めました。

この課題研究においてSociety5.0時代にAIとロボット(ドローン)を組み合わせた「レスキュードローン」の開発に取り組んでいる3名は、電子技術科南湖政克准教授の指導の下、10月13日(水)にはドローンに人感センサーとAIを組み込む研究をしていました。毎回、次のステップへの課題を各自が研究し、次の直接指導に備えます。





発表を行うメイン会場の様子

ひばりが丘高校 生活体験文発表会

県立ひばりが丘高等学校(渡邊圭一郎校長)では、9月3日(金)に生活体験発表大会を開催しました。各年次・クラス代表の11名が、左記のテーマを発表しました。この発表会は、生徒が悩みや困難を省察し、生活を見つめ、文章にまとめることで表現力を養うことと、学校生活等を通して感じ学んだ貴重な体験を発表し、多くの人に感動と励ましを与えることを目標としています。

感染症対策のためにメイン会場とサブ会場をオンラインで結んでの開催となりましたが、発表者は様々な経験を通して実体験を、自分の言葉を使って観客に伝えていました。



発表会優勝者

《生活体験発表会 テーマ一覧》

「成長」 「人と共に生きる」
 「喜怒哀楽の体験」 「好きなことを得意に」
 「高校生活を振り返って」 「ちょっと大人に」
 「初めてのバイト体験」 「鈴木の生活体験」
 「高校生になって変わったこと」
 「アルバイトについて」 「私の憧れ」

・・・この発表会で優勝した「関山愛奈」さんは、学校代表として山梨県定時通信制教育祭(次ページ)へ出場します。・・・

都留高校 駅舎(都留高校前駅)清掃活動

10月5日(火)に県立都留高校(廣瀬浩次校長)では、富士急行線の上大月駅(副駅名:都留高校前駅)の駅舎清掃を行いました。今年の2月にリニューアルされた駅舎は、富士急行と都留高校生徒との共同企画「都留高校前駅デザインプロジェクト」の一環として、生徒のアイデアを盛り込んだものです。



この活動は、日頃から登下校で利用している駅舎やホームの清掃、除草作業等を通して地域へ貢献し、奉仕と環境保全の精神を育成する目的で、数十年前から継続して行っています。環境委員長の大関陸斗さんは、「日々利用させていただいている駅をきれいにし、地域の皆さんにも気持ちよく利用してもらいたい。」と語っていました。

都留高校では、10月19日(火)にも学校周辺の通学路清掃を行いました。



各グループの1/4ハール風景

都留高探究プロジェクト

カテゴリー別中間発表会

10月22日(金)に県立都留高校(廣瀬浩次校長)の1・2年次生が合同で、「総合的な探究の時間」=「都留高探究プロジェクト」の中間発表会を行いました。

この発表会では、「社会・地域・医療・芸術・文学・文化・語学・食物・心理・生活・スポーツ・自然科学」などの内容を9つのカテゴリーに分類し、各グループが課題を設定して研究を行ってきた成果をまとめ、他の生徒の前で発表しました。質疑応答等を経て、自分達の研究の方向性や今後の課題を確認し、これからの研究の参考とすることを目的としています。感覚で判断するのではなく、数値等の客観的な評価や仮説・実験・考察などの研究の仕方を再確認する機会となりました。

都留高探究プロジェクトでは、1・2年次生が5人程度のグループになり、興味関心のあるテーマを深く掘り下げて探究活動を行っています。アンケート・インタビュー・実験・フィールドワークなど様々な方法で進めています。



発表を受けて評価



パワーポイントを用いた発表

上野原高校 インターンシップ(キャリア教育：2年希望者)



パラグライダー体験



図書館業務体験



保育サポート体験

県立上野原高等学校(棚橋雅一校長)は、平成23年より普通科を基軸とした総合学科を開設して、3年間をとおしてのキャリア教育「ドリカムシステム」の取り組みを行っています。1年次は「夢の探索」、2年次は「夢の確立」、3年次は「夢の実現」をテーマに、1年生は科目「産業社会と人間」を、2年生は「ワークトラベル」「インターンシップ」を、3年生は科目「課題研究」を行っています。今回は、今年の夏休みに行われた2年生(希望者)29名の「インターンシップ」活動を紹介します。

上野原高校では、平成24年からインターンシップを開始し、上野原市役所や民間事業者などの地域の力を借りて、就業体験学習を実施しています。インターンシップの良さは、実際の仕事や職場の状況を知り、自己の職業適性や職業生活設計など職業選択について深く考えるきっかけとなるところにあります。さらに疑問や課題に感じたことを、その後の高校生活の中で調べ、職業像を明確に持つことで学習意欲の向上にもつながります。



動物病院体験



市役所広報誌編集体験

地域の方々の理解と協力に支えられた総合学科ならではの「キャリア教育活動」の実践です。

第69回定時制通信制高校教育祭

未来へ～自分の花を咲かせよう!～

山梨県高校文化連盟定通専門部等が主催する第69回定時制通信制高校教育祭が、10月12日(火)にYCC県民文化ホールで開催されました。コロナ感染症拡大防止のため無観客での開催となりましたが、「生活体験発表の部」と「文化作品展の部」が行われました。

郡内からは2名が参加した生活体験発表の部では、ひばりが丘高校の関山愛奈さんが、洋楽や海外ドラマを視聴する中で英語を好きになり、英語検定を友人の後押しや学校の先生の支援を得て受検することを通して、自分にとっての大きな一歩を踏み出すことができた体験を発表した「好きなことを得意に」が準優秀賞に選出されました。



都留高 田村栞さん



ひばりが丘高 関山愛奈さん



都留高



ひばりが丘高

《《 INFORMATION 》》

- 小林雅英野球教室 日程変更 11/27→12/11(土) 於：都留高校
- アスリート実技講習会 第4回 記録会 11/6(土) 於：大月市宮陸上競技場
雨天の場合 11/13(土)に延期
- 地域教育「明日の風」 伊藤知治教士八段 剣道教室 YouTube視聴者限定配信
- 南都留地域教育フォーラム 実践提案・トークセッション：YouTube視聴者限定配信
都留市CATVで放映予定

スポーツの力! やまびこスポーツ記録会

選手宣誓



今年度開催された「東京2020 オリンピック・パラリンピック」では、多くの感動と共に、互いを認め合う共生社会の実現を感じさせるスポーツの力に魅了されました。



秋晴れの9月29日(水)、県立やまびこ支援学校(小林 勝校長)のグラウンドにおいて、中学部・高等部の生徒23名が参加して「やまびこスポーツ記録会」が開催されました。この記録会は、「特別支援学校スポーツ大会」参加に向けてやまびこ養護学校時代から続く行事です。

本年度はコロナ禍により10月下旬の「第37回特別支援学校スポーツ大会」が通信大会として実施することになったため、その記録会となりました。大会にエントリーした選手以外の、記録会のみを希望する生徒も参加しました。

練習の成果を発揮して、多くの選手が自己新記録を達成しました。応援の方々も声援を拍手に変えて、選手の奮闘を称えていました。



1・2年スポーツ交流 ことぶき勸学院

北都留教室(福嶋尚美担当)は10月8日(金)に、旧島田中学校体育館において「つながりを作る:地域での交流」講座(関戸知子講師)を行いました。コロナ禍で「ことぶき勸学院祭」の中止が決定し、1・2年生が合同で行う出し物発表の準備も途絶えてまいりました。上級生と下級生の交流の場が少ない中で、当日はスポーツを通じて学年の枠を越えてチームを作り、パラリンピックでも話題となった「ボッチャ」を楽しみました。



南都留教室(桑原利克担当)は、同講座を10月15日(金)に都留市下谷体育館で行いました。関戸知子講師は、中学校の保健体育教師として子どもたちに関わり、現在は県スポーツ振興局スポーツ振興課生涯スポーツ担当として、幅広い世代のスポーツ振興に取り組んでいます。学生時代は春高バレーにも出場し、今もママさんバレーの現役選手として活躍しています。

生徒たちは入念な準備運動の後、ルールやプレーの方法を学び、実際にボールを持って交流試合に臨みました。技量だけでなく、チーム戦術も必要で、身体も頭も使いながら、チームの和を高めていました。

【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHPからご覧いただけます。

URL: <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/jouhoushibackn.html> 】

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めてまいります。各事業についてご意見ご要望、地域連携活動の情報がありましたら、地域教育支援スタッフまでご連絡ください。

※連絡先 富士・東部教育事務所 地域教育支援スタッフ 0554-45-7841

文化芸術 = SDGsの秋 いきいきピアノ鑑賞会パート2 ふじざくら支援学校 中学部



10月15日（金）に県立ふじざくら支援学校（望月 公校長）の中学部で富士河口湖町在住のピアニスト、福士恭子さんの「いきいきピアノ鑑賞会」が行われました。今年の6月に第1回が行われ、今回で2回目となります。

当日は、第1部では福士さんから「SDGs」の話がされ、関連するクラシック音楽3曲が演奏されました。第2部では生徒がポエムを朗読し、ピアノ演奏がなされました。ポエムに合わせて「ゼツメツキグシュノオト」から9曲を演奏しました。

生のピアノの音をよく聞き、演奏の様子をよく見て、堂々と朗読することを目標に活動した生徒たちは、福士さんからの問いかけにも元気に答え、「SDGs」を生活の中でどのように取り入れられるかを考えました。



地域教育「明日の風」 第17回伊藤知治教士八段剣道教室



北都留地域教育推進連絡協議会（「地域教育 明日の風」会長：小林信保大月市長）では、10月17日（日）に大月東小学校において「第17回伊藤知治教士八段 剣道教室」を行いました。昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大によって中止となりました。本来は子どもたちとの稽古やふれあいを通して剣道に精進すること、技や生き方に目標を持つことができる機会でしたが、今年はコロナ禍の子どもたちが家でもできる剣道の基本動作や稽古のあり方をDVDにして関係者に配付し、YouTube 配信（視聴者限定）をすることと

なりました。

伊藤知治講師は、大月市出身で現在警視庁名誉師範を務めています。剣道八段・居合道八段・逮捕術八段を保持し、子どもたちの「心・技・体」の育成に尽力いただいています。講師は初心者も指導者も共通の基礎・基本の大切さを説いていました。

撮影に協力をいただいた方々、収録・編集等していただいたローカルディスタンスの皆さんに感謝いたします。



ウーマーイーツ (NACS) × 吉田高校放送部

社会に貢献し持続可能な経営を目指す馬力屋（株式会社ナックス：白須一政社長）では、小室浅間神社で800年以上続く「流鏝馬祭」の伝統を守り、次世代へつなぐ活動や馬を用いた観光事業、イベントを通して地域の活性に取り組んでいます。コロナ禍での外出自粛で人足が途絶えた飲食店の力になろうと、馬車による弁当配達、ウーマーイーツならぬ「ウーマーイーツ」を昨年5月から開始しました。

取材日には、県立吉田高校放送部（島袋あゆみ顧問）が、この活動を高校芸術文化祭で伝える為に取材していました。富士吉田市内の2店舗から弁当を受取、注文先の山梨中央銀行→芙蓉建設→富士吉田市役所→富士吉田商工会議所へ「バートーヴェン君」と羽田さん、荻窪さんが配達しました。待っていたお客さんたちは弁当受取よりも先に、バートーヴェン君に駆け寄っていました。



吉田高校放送部は、現在11名で地域とともに地域に根差した放送活動を行っています。直近では、全国高校総合文化祭ビデオメッセージ部門の山梨県代表に選出されています。

馬たちにとっても、ウーマーイーツはワークライフバランスのとれた「うーまーい」活動です。



大月 ももたろうプロジェクト (vol. 4) 大月桃太郎サミット開催

桃太郎サミット2021 in 大月

10月16日(土)市立大月短期大学岩殿ホールにおいて「桃太郎を世界へ！」をテーマに、第18回桃太郎サミットが開催されました。コロナ禍で開催が1年延期となり、今回も全国の日本桃太郎会連合会の方々が一堂に会することはできませんでした。参加者も限定し、当日の様子はYouTubeで生配信されました。

当日はセレモニーの後、コロナ退散を願って丸一仙三さんがヨゲンノトリ音頭を披露。第1部では、立石連合会長の講演および、小学生の時に調べ学習で文部科学大臣賞を受賞した倉持よつばさんが「図書館を使い切る調べ学習『桃太郎は盗人なのか』」と題した講演をしました。第2部では、上野原市出身の浪曲師 木村勝千代さんの「甲州街道桃太郎伝説：鬼退治編」と桃太郎俳優 神木優さんの「世界に羽ばたく桃太郎！」の演目が披露されました。第3部では、各地の活動報告の後、実行委員長の小林信保大月市長から「大月桃太郎宣言」がなされました。

多くの観光資源を持つ大月市の魅力度アップ、郷土愛の醸成に寄与することを願います。



10月1～28日の期間に「調べる学習 桃太郎展」が大月市立図書館で開催されました。

桃太郎サミットに合わせて市立図書館が所蔵する桃太郎や鬼に関わる書籍、点字貼絵本を展示しました。「いろいろな桃太郎や鬼の話を読み比べて楽しんでほしい」と図書館担当者は語っていました。

調べる学習 桃太郎展 in 大月市立図書館



桃太郎クリエイターズ展 in 大月市郷土資料館

10月1～28日の期間に「桃太郎クリエイターズ展」が大月市郷土資料館で開催されました。

市内在住の芸術家たち(和田定夫：版画家、小俣喜昭：彫刻家、大窪恭子：画家)が、大月桃太郎伝説にインスピレーションを受けて制作した作品が展示されました。

「はり板」に描かれた作品には、畑倉に伝わる安倍晴明の「セーバーバン」話に題材をとった作品もあり、目をこらしてご覧下さい。



オープンイベント in 桂川ウエルネスパーク

10月17日(日)桂川ウエルネスパークオープンイベントが開催されました。大月桃太郎の歴史や全国各地の桃太郎資料、ロゴマーク・絵手紙コンテスト受賞作品が展示されています。都留高校探究プロジェクトによる「大月桃太郎伝説」と「おつけだんごものがたり」の紙芝居が行われました。大月短大や県立大学の学生も運営に参加していました。

